

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①ゆったりと楽しく ②自由にのびのびと ③いつも同じ仲間、なじみの環境 ④残された力で暮らしの喜びと自信を	○	理念にそって日々のケアに取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は食堂と玄関に明示し毎日、目にする事により実践に向け取り組んでいる。	○	毎月一回行う全員参加のケース会議時、唱和を行い理念についての話を必ず行うようにする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関や食堂に明示しており、利用者及び利用者家族へ利用案内時、必ず説明を行い理解して頂いている。	○	H20年より、併設施設が発行する年2回の情報誌にホームのページを設け理念や情報を掲載していく事とする。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方が直接、野菜や花を売りに来られたり、ご近所の方が面会に来られたりと気軽に立ち寄って頂いている。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方が集まる併設施設の文化祭や夏祭りに積極的に参加すると共に町内の文化祭等にも参加し交流を行っている。	○	その他、12月に行われる地域のしめ縄作りにも参加を予定している。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設施設で行っている地域の方が参加する介護教室に参加する事により取り組んでいる。(年3回)	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月1回ミーティングを行い改善に向け取り組んでいる。	○	職員全員が一丸となって更なる改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者家族・民生員・公民館長等に出席して頂き、報告や改善点を話し合いサービスの向上に活かしている。	○	ホームの要望・改善点など多くの意見を出して頂き情報交換を行い、ホームの質の向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、運営推進会議に出席して頂いた時のみ情報交換を行っている。	○	ホームの情報紙等を見て頂いたりして、情報提供を行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要が生じた時には、活用できるよう支援している。	○	外部研修等に積極的に参加するよう取り組んでいきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内や外泊より帰所された時の精神面の変化や皮下出血や傷等必ず原因を調べ確認を行っている。	○	書籍や研修等に参加する事により学ぶ機会を増やしていきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を十分聞いた上で、説明を行い理解・納得をして頂いている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常々、利用者とコミュニケーションを取ることであり、意見や不満等を聞く機会を設けている。	○	利用者の細かい意見や苦情も聞きのがさず、しっかり受け止め改善していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活状況・健康管理に関しては、毎月の状況を文書にて報告している。金銭管理も毎月面会時確認して頂いている。職員の異動等必要に応じて報告している。	○	面会が少ない方に関しても月1回必ず暮らしぶりを書面にてお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口の紹介など文書と口頭で伝えており、ホーム玄関に意見箱を設置している。	○	苦情・不満に関しては、外部相談窓口や意見箱などを設置している旨、繰り返し伝えていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回法人全体のリーダー会を実施し、各事業所の意見・問題点等を聞いて改善している。運営者・管理者は併設施設に常勤しているため随時相談可。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員全員周知しており、緊急時又はその必要性が生じた時には、勤務の調整行い、柔軟に対応している。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	リーダークラスの職員は、全て併設の老健で主任を努めた実績あるものを配置する。新入職員は老健で介護技術習得後勤務する。	○	
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアプラン、事故防止対策・感染症防止対策・褥瘡防止対策・身体拘束廃止の内部研修を実施している。介護福祉士等の資格取得を進める。	○	今後、外部の研修についても積極的に参加する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会の役員として勉強会の計画及び実施等に参加し、他のG・Hと密に情報交換して当G・Hの運営に役立っている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が自由に意見を言える。又は自主的に改善していける職場を常に目指している。年1回の職員旅行(1泊)を実施し、職員間のコミュニケーションの向上に役立っている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、併設老健に常勤しているため職員の勤務状態等把握し、勤務実績・資格取得に応じ、待遇を考慮している。	○	
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に必ず面談を行い、本人の困っている事や不安に思っている事など十分に話し合い、本人を知り受け止める努力をしている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、面接で十分な時間を取り、家族の不安や意向・要望などを伺い、理解するよう努めている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・裁縫・園芸等いろんな事を教わり学び合いながら、信頼関係を築いている。	○	若い時の写真やお孫さんの写真を持ってきて頂き、昔話など楽しく行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の状況を報告したり、いろんな情報を共有しながら共に本人を支えていく関係を築いている。	○	常に家族とも情報交換を行い信頼関係を築いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人やご家族より家族関係を聞き、理解に努めより良い関係が築いていけるように支援している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙などでコミュニケーションをとって頂いたり、家族に本人の思いを伝えたりして本人の希望がかなうよう支援している。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	高度難聴の方など、その都度職員が間に入りわかりやすく説明したりして孤立しないよう支援している。	○	常にかたよる事なく皆様に声を掛け孤立感を持たせないようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自発的に定期的な連絡等は行っていない。	○	暑中見舞いや年賀状を出すことにより、関係を断ち切らないよう継続していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや意向は必ず聞くようにし把握に努めている。困難な場合は、生活歴等参考にし、本人本位に検討している。	○	1日に必ず個人と向き合う時間を設け話をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用などの情報を聞き、把握に努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事の摂取量やバイタルチェック等の健康管理や精神状態の変化等、常に観察し把握するように努めている。	○	
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望や家族の要望などは、入所時に必ず確認し、面会時にも状況を説明したりして、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	○	もう少し密な家族や本人の意見を反映させた介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の介護計画の見直しや状態の変化に応じた介護計画の見直しを行っている。家族には面会時、状態変化等報告し話し合っている。	○	3ヶ月以前に見直しを行わないといけない例はあまりないが見直し必要な時には、新たな計画を作成することとする。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌の記録や同時に個人のカルテにも記入を行い、情報を共有し日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。	○	もっと介護計画に連動した個別記録の記入を行ってほしい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々要望に応じてグループホーム内で、出来る事に関しては柔軟な支援をしている。	○	
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向や必要性がある時は、それぞれの機関への協力支援を行っている。	○	小・中学生の体験学習ボランティアの受け入れは行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他サービス事業者に依頼して病院受診の付き添いや、外出・外泊時の送迎等のサービスを利用している。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性が生じないため、地域包括センターと協働したことがない。	○	必要が生じた時には、地域包括センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人・家族の希望を第一とし、希望がない場合は、当事業所の協力病院で適切な医療が受けられるよう支援している。	○	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院である品川医院の医師や併設施設の医師と密な関係を築き認知症に関する治療を受けている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師や併設施設の看護師に気軽に相談しながら日常の健康管理を行っている。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院に入院した場合、情報交換や相談を密に行い連携をとっている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のケアは、行っていないので入院して頂くか併設施設への入所に対応している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のケアは、行っていない。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。	○	
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを尊重し、声かけや対応に気を配っている。 個人情報に関わる同意書を家族と取りかわしている。	○	常々、優しい声かけを行うよう気を配っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望は必ず聞くようにし、本人にわかりやすい言葉で説明を行い自己決定を促している。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人々のペースを把握しており、決して強制することなく本人の意思を尊重している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服や髪型は、本人の希望に合わせて選んでもらい、美容室も本人の望む店に行けるよう支援している。	○	おしゃれに関しては、家族の方に協力お願いして、なるべく本人の希望をかなえてあげたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや使用する食材の相談・下ごしらえから片付けまで利用者と共に行っている。	○	以前の利用者の食生活の話聞きながら楽しい食事になるよう皆で協力して行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、毎月1日に個人の好みに合わせ楽しんで頂いており、おやつは、好みを聞いた上で皆同じ物を日ごとに変えて毎日15時に出している。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時の声かけ行っているが尿意がある方は拒否される等なかなか難しい。間に合わず失禁される方には、安心のためパットや紙パンツを使用している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの15時からの入浴としており、夏場・入浴日以外の希望があればシャワー浴行っている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	フリーな時間には、その時々状況に応じて自由に好きな場所で休息して頂いている。	○	皆様、それぞれの場所でゆっくりとくつろいでいらっやいます。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の力を活かした役割やしたい事、楽しみ事に関しては希望を聞きながら行えるよう支援している。	○	自己主張ができない方たちに対してもその人らしい楽しみ事などを見つけてあげ支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食時個人々に自分の分を支払って頂いたり、ホームに野菜やパンを売りに来られるので、その時に支払いをして頂いたりしている。	○	家族に了承して頂き、本人が必要としている衣類や日用品などを本人といっしょに買いに行けるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人のその日の希望にそってとはいかないが、室外活動が可能な日は園芸や散歩等積極的に行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別的には無理だが、毎月1回利用者に行ってみたい所などを聞き外食と兼ねドライブを行っている。家族へは、なるべく外出の機会をもって頂くよう支援している。	○	なかなか全員で外出する機会は、少ないのでいろんな行きたい場所に連れて行ってあげたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えや職員が思いを察した時には、自ら電話をしたり職員がかけてあげたりしている。手紙も同様である。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所・面会時には、お茶を出し居心地よく過ごして頂けるよう配慮行っている。	○	
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うような方は、現在いないが研修などに参加し正しい理解は得ている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室窓や玄関には鍵をかけておらず、玄関を開けると鈴が鳴るよう扉に取り付けている。	○	利用者の行動を把握し細やかに接する事でカギをかけないケアを継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングで過ごされる方が多く、居室で過ごされている方に対しても定期的に居室での所在確認を行い様子把握行っている。	○	必ずスタッフ同士で声をかけ合い、所在や様子の把握に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	補聴器の電池や裁縫道具などは、職員が預かり必要な時に渡すようにしている。	○	それ以外の物でも対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関しては特に注意を払い、毎月の会議で必ず話し合い確認を行い日々事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハット記録を作成し、事故防止に努め事故が起こった時には、アクシデントレポート記録を行い再発防止に努めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の初期対応に関しては、理解しているが定期的な訓練は行っていない。	○	応急手当や初期対応の訓練を行ってきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	併設施設での地域合同消防訓練や消火訓練・消防訓練等に参加し、地域の方の協力得られる働きかけを行っている。	○	年に2回、5月・10月にホーム単独の避難訓練を必ず実施することとする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	想定されるリスクについては面会時、常々家族の方に説明を行い対応策を話し合っている。	○	これからもリスクに対しての家族への説明は密に行っていきたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝・昼2回バイタルチェックを行い、細やかに利用者の体調観察し異変ある時には、すみやかに協力病院もしくは、かかりつけ病院の受診を行っている。	○	早期発見・早期対応に心がけていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方箋ファイル作成し、毎日の服薬支援と症状の変化の確認を行っている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたバランスのとれた食事を提供し、軽い運動等を行い排便チェックも行っている。	○	できるだけ自然な排便が可能なように支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日4回口腔ケア実施して頂き、異常があれば歯科受診行っている。	○	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量は記録を行い、併設施設の管理栄養士の方に定期的に献立表のチェックを依頼している。毎月の体重測定も行っている。	○	栄養士にチェックやアドバイスを頂き栄養管理を行っていききたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防・対策マニュアル作成し実行している。毎年1回家族同意の上、インフルエンザの予防接種を行っている。	○	併設施設で行う感染症の研修に参加していききたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等、定期的に漂白・殺菌・日光消毒行っており、食材も新鮮なうちに使い切るよう unnecessary 買いだめなど行っていない。	○	台所の清潔には特に気を配り、冷蔵庫も定期的に掃除行い、消費期限・賞味期限を必ずチェックしている。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇には草花を植え、表札には名前を明記している。	○	親しみやすく感じのいい環境づくりを工夫しながら行っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の花壇が見える窓の横にソファを置いたり、玄関や居間、食堂のテーブルに季節の花を飾ったり、違和感のない家具や手作りの小物などを置いている。	○	利用者が心地良く過ごせるように配慮を怠らず工夫していききたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の明るい場所に4人掛け用のソファを置き、和室の居間では座って話ができる。リビングのソファは1人掛け用になっている。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や愛着のある物を持ってきて頂いている。 何もない方には、職員が準備したりしている。	○	近所のお店に部屋へ飾る小物などを買いに行ったりしていききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に湿度・温度計を置き、温度管理を行っている。換気もまめに行い、各居室すべてに消臭剤を置き、気になる匂い等に気を配っている。	○	
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室にはすべて手すりを設置しており、台所のテーブルやベランダの物干し台など低めの物を使用している。	○	利用者の機能的には、今のままで不自由はないようである。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉には名前札をかけており、失見当ある方には目印になる物をかけている。トイレや浴室などもわかりやすく表示している。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには花壇があり季節の花を植え、園芸活動行っている。ベランダにはいつでも出られるようになっており、洗濯物を干したりしている。	○	天気の良い日は、ベランダで仲のいい方達が景色を見ながらお話しをしていたりしている。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働けている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない